



# 出前講座報告書

平成30年9月20日 福島市保健福祉センター

## 災害保健活動の体験から学ぶ

東日本大震災から7年が過ぎました。本出前講座では、3.11での保健師の体験と、DHEAT（災害時健康危機管理チーム）の活動報告後のアンケート結果をもとに、災害マネジメントにおける保健師の役割と活動について学びました。



### 講義・グループワークの様子

災害マネジメントサイクルにはリスクマネジメント（平時）、クライシスマネジメント（リスク顕在化後・緊急事態）の2つがあり、平時の保健師活動には、協働の視点、組織マネジメント＝「育ち合える職場づくり」、地域マネジメント＝「安心して暮らせる地域づくり」が必要であることを学びました。

グループワークでは、日々の活動と災害時の活動を振り返り、今後どのような保健師活動を行いたいか話し合いました。

実際すぐに始められるのは何かを、グループごとに発表し共有しました。住民参加の地域保健活動に向けての具体的な案も出されました。



## 講師紹介



福島県立医科大学  
医学部災害公衆衛生看護学講座  
教授 末永カツ子

### \*略歴

- ・自治体保健師として保健所、児童相談所、発達相談支援センター等に勤務
- ・東北大学大学院教育学研究科後期博士課程終了（教育学博士）
- ・東北大学医学系研究科 地域ケアシステム看護学分野教授
- ・長崎大学・福島県立医科大学 共同大学院 災害・被災者医療科学共同専攻教授

### \*専門領域

- ・公衆衛生看護学
- ・地域ケアシステム論

## 参加者の感想（一部抜粋）

- ・前向きに活動してみたいと思えるようになりました。
- ・育ち合える職場づくりを具体的に進めたいと思いました。
- ・専門職だけでなく、事務職の方とも話し合いたいと思いました。

## アンケート集計結果

参加者は30名、アンケート回収は23名でした。

評価項目	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	91%
時間配分は適切だった	91%
進行は適切だった	96%
講義について	
講義内容が理解できた	83%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	96%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	91%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	96%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	52%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	57%

### \*復習ポイント\*

- ・組織マネジメントに不可欠なものとは？
- ・地域マネジメントに不可欠なものとは？

### 編集後記

震災の体験には辛い記憶が多いものですが、どのように今後の活動に活かしていくかを参加者の皆さんが真剣に話し合われている姿に、責任感の強さを感じました。（荒）

\*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計